

かながわの全ての子ども・若者の 未来を信じて

かながわの子ども・若者支援プログラム研究会
自己肯定感を高めるための支援プログラム

活用のための概要版リーフレット



県教育委員会では、平成28年度に「かながわの子ども・若者支援プログラム研究会」を立ち上げ、子ども・若者の自己肯定感を高め、子ども・若者の“生きにくさ”を改善するための一つの方策として、平成29年5月に「自己肯定感を高めるための支援プログラム」（理論編・実践編）を発行しました。

今回、このプログラムの一層の活用を図るため、概要をまとめたリーフレットを作成しました。子ども・若者の自己肯定感を高める関わり方について、本リーフレットとともに本編も御活用ください。

平成30年3月
神奈川県教育委員会

「自己肯定感を高めるための支援プログラム」（理論編、実践編）は、県教育委員会のホームページからダウンロードすることができます。

自己肯定感を高めるための支援プログラム



検索

理論編

() 内の数字は、本プログラム理論編における掲載ページです。

I プログラム作成の経緯 (P.3~7)

●プログラム作成にあたっての基本的な考え方 (P.6~7)

「全ての子ども・若者の未来を信じて」という理念のもと、

①包括的な支援 (学校・家庭・地域社会) につなげること

大人が子ども・若者と関わる日常の中で常に行えるようなプログラムとすること

②「予防」と「協働」

子ども・若者の変化に気づいた時には必ず支援を行うという「予防」の観点と、専門職等の関係者に相談するなどの「協働」の視点を位置付けること

③児童・生徒を学校 (教員) が支援する成長段階別のプログラム実践

実践編は、成長段階別に教職員向け資料としてまとめ、家庭、地域、関係諸機関でも汎用的に活用できるプログラムとすること

④子ども・若者の自己肯定感を高めること

子ども・若者が「自己肯定感」をもてるような大人の見方や関わり方をプログラムの中核に据えること

II 神奈川県の子ども・若者の状況 (P.8~14)

各種調査の結果から見る、本県の児童・生徒の問題行動や不登校、少年非行、中途退学、自己肯定感等に関する状況。

III 子ども・若者への支援 (P.15~19)

1 子ども・若者の自己肯定感を高めるために必要なこと (P.15~17)

ありのままの自分であることが保障され、排除される心配がない「心の居場所」がある状態が必要であり、「自分が認められている感覚」－「自分を認める感覚」－「人を認める感覚」が循環して作用することにより、「心の居場所」は確固たるものになる。

自己肯定感とは・・・

自分が価値ある人間であり、自分の存在を大切に思う気持ち (自己充実感・自己存在感・他者からの受容感) のこと。

ありのままの自分や、自分の存在そのものを認められることによって、育まれる。

●人の「特徴」とその見方

多様性を認め合うこれからの社会においては、子ども・若者の全ての「特徴」を積極的に認めていく姿勢が重要。

子ども・若者の「特徴」が、環境と良好な関係で展開すれば、それは「長所」となり、環境とあつれきを生む形で展開すれば、「短所」となる。

これは「特徴」そのものの問題ではなく、「特徴」と環境との関係の問題である。

●子ども・若者の「特徴」を肯定的に捉えること

子ども・若者の「特徴」を多様な視点で捉え、短所と思える「特徴」も、「どうすればより良くいかせるだろうか」と捉えて接することが大切。

「短所」として現れてしまっている子ども・若者のさまざまな「特徴」を、大人が肯定的な「特徴」として、見方や考え方を修正することができれば、子ども・若者は、自ら肯定的な態度をとることができるようになる。

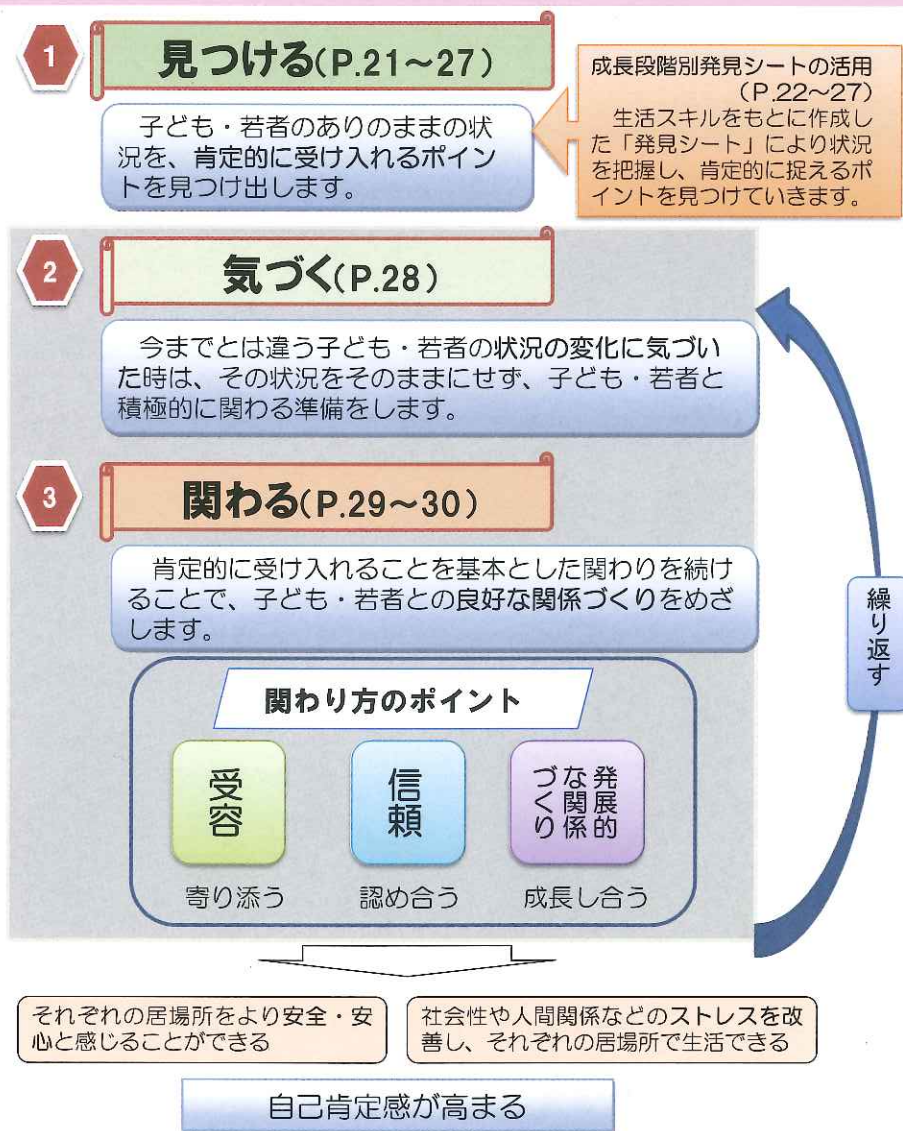
2 自己肯定感を高めるために留意すべき点 (P.18~19)

- 積極的・肯定的に関わること
- 成長にあわせること
- 成長にあった生活スキルを把握すること

「人間関係や社会的なつながり」に関係する生活スキルを、その社会に適応して身に付けていることは、よりよく生活し、自己肯定感を高めるうえで大切。

IV 子ども・若者の自己肯定感を高めるための支援プログラム (P.20~30)

「1 見つける」——「2 気づく」——「3 関わる」という一連のプロセスの繰り返し



関わり方のポイント (P.30)

- 「**受容**」
気持ちに寄り添う姿勢。安心感を与えるだけでなく、将来の成長や変化をめざすためのスタートラインを、大人と子ども・若者で共有することにつながる。
- 「**信頼**」
互いに認め合う姿勢。子ども・若者の「成長の可能性」、
「将来の可能性」を信じて、その子ども・若者自身を認めながら関わり続けることが大切。
- 「**発展的な関係づくり**」
互いに成長し合おうとする関係性。子ども・若者に「良くなりになりたい、できるようになりたい」という発展的な動機づけを与える関わりをすることが必要。関係性を保つためには、「この人となら」という思いを子ども・若者に抱かせる工夫も大切。

「発見シート」の活用 (P.8~17)

幼稚園・保育園段階から高校生段階までにおける、子ども達を肯定的に捉えるポイントを一例として示しています。日常の指導に活用してください。

実践例 (P.18~86)

幼稚園編 (P.19~22)

『関わりがもてない園児にどう寄り添う？』 (生活指導編)

未経験なことや失敗しそうなことに抵抗感が強い園児。自分から挑戦していこうとする園児の気持ちをつくっていく関わり方とは？

中学校編 (P.47~66)

『支援なしで大丈夫ですか？』 (生活指導編)

外国につながるのある日本国籍男子生徒。授業では、ぼーっとすることもあるが、受け答えはしっかりしているので支援の必要がないと捉えられていたが…

【掲載事例】

- ・『心のコントロールができるためには？』
(生活指導編)
- ・『テストの点数や成績に固執する生徒にどうアプローチする？』
(生活指導編)
- ・『付けたい力は明確になっていますか？』
(教科指導編)
- ・『授業を振り返り、次の目標をもたせていますか？』
(教科指導編)

SSW編 (P.83~86)

『家庭環境の課題を抱える生徒への支援』

家庭環境が要因で不登校である生徒。SSWと連携しながら、生徒の学校生活の再開をめざすための働きかけとは？

小学校編 (P.23~46)

『見通しをもたせた学習を進めさせていますか？』 (教科指導編)

学習の見通しをもてず、することが分からない児童。学習の目標や手立ての見通し、学習の意味をもたせるためには？

【掲載事例】

- ・『注意力散漫？好奇心旺盛？関わり方は？』
(生活指導編)
- ・『傷つける言葉の裏にあるものは、何でしょうか？』
(生活指導編)
- ・『困ったら相談するよう促していますか？』
(生活指導編)
- ・『自分を認めてくれないと思っている子への関わり方は？』
(生活指導編)
- ・『子どもたちがワクワクするような授業展開ができていますか？』
(教科指導編)

高等学校編 (P.67~78)

『進路選択に前向きになれるよう、 どのように関わりますか？』 (生活指導編)

進路選択に投げやりな気持ちになっている生徒。進路選択について前向きな気持ちになれるような声かけは？

【掲載事例】

- ・『つまずきを受け止めるには？』
(生活指導編)
- ・『イライラを抑えたい生徒に、どのように関わりますか？』
(生活指導編)

特別支援学校編 (P.79~82)

『発表に抵抗感をもっている生徒に、 どのように関わればよいでしょうか？』

発表に抵抗感をもっている生徒。その状況に至る原因と必要な関わりとは？

自己肯定感を高めるための支援プログラム 活用のための概要版リーフレット

発行 平成30年3月
発行者 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課
横浜市中区日本大通33
(045)210-8292 (直通)